

双塔



新潟教会 2014年10月

No. 317

今も祈り給え

助任司祭 ナジ・エデルベルトウス

前月の敬老の日（9月14日）の祝賀会で、ある秋の歌、つまり、「証城寺の狸囃子」を興味深く聞きました。「そ、そ、そじょじ」と聞こえたときに葉っぱ掃除を思い出し、ポン ポコポンのポンの音を聞くと腹が満腹していて、狸や農民のよい収穫の喜びを思い出しました。歌の中に書いてないのですが狸さんも大地の実りを味わい、和尚さんに負けずに寺の庭で踊り楽しむまで想像しました。

忍耐をもって夏の暑さを耐えて来たことも愛と思います。よい収穫を頂いて神に感謝する人とともに喜ぶことも愛だと思います。神様は私たちを今まで導いてくださり、秋の美しさを体験させ、感謝の祭りを捧げる人とともに心を合わせてくださいます。それによって私たちもマリア様の歌を含めて、神を崇めることを学びます。

マリア様の歌と言えば豊かな歌で短くコメントしきれませんので、神を崇める部分を短く見てみましょう。「わたしは神を崇め、その救いによろこび踊る」。これは歌の初めの部分です。人間を創造される目的はなんであるかをマリア様はその歌の初めに語られました。神を崇めることではないかと思います。しかしその心構えと行動は簡単ではないでしょう。天使として創造されたのに、神を愛する心を失って憎しみが変わったものをサタンと言います。天使たちが神を愛する心はもちろん、私たちを助けるために忍耐をもってともにおられる守護の天使を今月2日に記念することになっています。守護の天使の中で、あまり苦勞されなかったのはマリア様の守護天使ではないかと思います。神を愛するというマリア様の決心の強さは人生の最後まではっきり見られます。

「神様のはしため、この身になりますように」と天使ガブリエルに返事されたマリア様は天使と同じ心構えをお持ちになる方です。天使よりマリア様は天と多くの人間のいわば仲介者であり、イエス様とともにすべての人間の救いを望んで、とりなし続けておられます。神様と人間を愛するイエス様の掟を大切にするマリア様ですね。（マルコ 12：30-31）

今月の7日に私たちはマリア様によって人間の命を守る神のわざを記念することになります。今月は“マリア様”という名前が多くのカトリック信者の口によく唱えられます。カナの婚礼パーティーで新郎新婦を助けられたマリア様が今も臨終の時も祈ってくださるようにと、ロザリオの祈りは唱える人にマリア様の役割を教えます。私たちもイエス様とともにすべての人間の救いを願い、またその使徒的な活動に参加することができるように、マリア様の取次ぎによって恵みを願いましょう。



■ 十字架称賛（敬者のミサ） ----- 9月14日（日） 9:30 -----

敬老を祝うミサがラウール神父様の司式で捧げられ、最後に、ロベルト・ベラルミノの霊名の祝日の三崎神父様に霊的花束が贈られた。ミサ後は、センター2階で、長寿を祝う茶話会が開かれた。敬老会代表のN氏（86歳）は、洗礼を授けて下さった神父様が新潟教区で最初の司祭・関神父様であることや、受洗から77年になり、教会のためにお手伝いしたいと話された。

続いて、敬老会・新会員5人のうちの一人である女性は、敬老の仲間入りを果たして嬉しい。昔、お世話になった人の病氣見舞いに行ったとき、最期の予感を感じた。しかし、笑顔で別れることができたことが不思議で、聖書を勉強しようと思い、新潟教会を訪ねた。当時の神父様の三森神父様に相談すると、しばらく壁に向かって沈黙された後、分厚い聖書を下さった。あの日から、勉強が始まり、今の自分の一部となっている。教えていただいた一つ一つを、喜びながら生きていきたいと話された。

■ 長岡宣教100周年記念ミサ・新潟地区秋の大会 --- 9月15日（月） ---

米百俵の精神と伝統が息づく長岡の地に、神言会の宣教師により福音の種が蒔かれたのは1914年6月という。それから100年、この間に頂いた神の恵みと、幾多の困難を乗り越えて宣教に従事された神言会やフランシスコ会の宣教師、そして今日まで信仰を守り伝えてきた先人への感謝のミサが長岡教会でささげられ、連休に合わせて黙想会を行っていた青年たちや、同日開催の新潟地区秋の大会の参加者も含め300人ほどが教区内外から参集した。長岡教会は今年1月、旧表町教会と福住教会が合併して誕生。

菊地司教様はミサの説教の中で、教皇フランシスコが使徒的勧告『福音の喜び』の中で書いているあるべき教会の姿、すなわち「出向いていく教会」について語りながら、「日本の教会は少子高齢化の影響もあり、特に地方では規模が縮小傾向にあり、どうしても今あるものを守ることを優先してしまう。長岡でも、2つの小教区を合併したことは、社会的次元で見れば縮小かもしれない。しかし、イエスの救いの福音は、単なるすすめの言葉ではなく、今日、この長岡で、あなたがたが耳にしたとき実現した、とイエスは仰っている。多くのまだキリストを知らない人々にこの福音を告げ知らせるという原点を確認しながら、これからの歩みを始めていただきたい」と話された。これまで奉仕してきた宣教師への感謝の意が贈られる中、長岡地区長のフーベルト神父様（フランシスコ会）は、召命が減少しインドネシアなどから司祭を招いているドイツの教会の現状を紹介。宣教師を受け入れてくれた地元の信徒への感謝を述べられた。また、長く表町・福住教会の主任を務めたブルーノ神父様（同会）も、司牧者を育ててくれた信徒への感謝を述べられた。

《2014年 10月の聖書クラス・信仰講座のご案内》

曜日	時間	内容	担当司祭
月曜日(不定期)	午前10:00～	キリスト教のQ&A	三崎神父
水曜日(毎週)	午前10:00～	聖書クラス	ラウール神父
木曜日(毎週)	午後19:30～	キリスト教入門	ラウール神父
第2土曜日	午前10:00～	第二バチカン公会議の学び	ラウール神父

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。

カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行 / カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL : 025-222-5024 FAX : 025-222-5054 <http://www.niigatacathedral.org>

